

石蓆梁山泊

～つわぶきの野で夢を叶える～

島根県立津和野高等学校

女子バレーボール部

島根県鹿足郡津和野町後田ハ12-3

TEL (0856) 72-0106

FAX (0856) 72-0329



令和2年8月号 (VOL.53)

I・毎年恒例、隠岐遠征に行ってきました！

8月3日(月)から8日(土)の6日間、隠岐の島町布施地区を活動の中心に毎年恒例の隠岐遠征を実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大により実施について検討しなければなりませんでした。隠岐の島町役場布施支所、商工観光課の皆様、そして布施公民館スタッフ、ベースキャンプのジオ・リゾートシンフォニーのスタッフの皆様のご理解とご尽力により、感染対策を万全に講じたうえで実施させていただくことができました。

そして今年度は、隠岐高校女子バレーボール部の皆さんと合同練習をさせていただき、充実した練習会となりました。今年度から隠岐高校女子バレーボール部には、監督として佐藤先生(昨年度まで益田高校)が赴任され、監督同士、よく知る指導者仲間として久々に切磋琢磨することが出来ました。ちなみに佐藤先生も、高校時代(大東高校男子バレーボール部、監督＝藤原真介)に“過酷な”隠岐遠征を経験して強くなったと、(きっと！)振り返っておられます。そんな指導者の二人のもとで始まった合同練習会ですが、初顔合わせの時には戸惑った表情だった隠岐高校の選手の皆さんも、

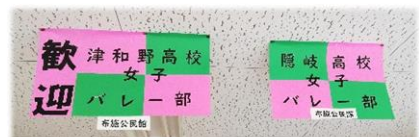
西ノ島・通天橋にて



練習を重ねていくうちに、身体を張ったレシーブや最後まで諦めずに必死にボールを繋ごうとする動きと構え、そして声や表情、立ち姿が大きく変身してきました。合同練習は3日間という短い期間でしたが、互いに刺激し合い充実した練習会となりました。2日目の練習後に、隠岐高校の皆さんから海遊びにお誘いいただき、体育館以外でも交流を図ることができ、とても有意義な時間になりました。バレーボールを通じた、こうした仲間作りも遠征の魅力だと感じています。また、最初の2日間は隠岐高校の選手だけでなく、地元中学生も参加してくれました。とても将来性のある中学生でしたので、これからの隠岐バレーも非常に楽しみになりました。

遠征初日は、毎年、布施公民館体育館の大掃除から始まりますが、体育館玄関に入って最初に目にしたのが、私たちを歓迎していただくメッセージボードでした。さらに今年度は体育館玄関フロアにかき氷セットが用意され、熱中症対策と厳しい練習の合間の癒しとして利用させていただきました。こういったお心遣いが随所に施されており、高校生スポーツが地域の方々に及ぼす影響や、その役割と責任というものをあらためて気付かされ、ただ自分たちが満足すればよいというものではないということを学ばせていただきました。これからも地域(津和野だけでなく、島根県、さらには日本)の活性化の一翼を担えるように精進していきます。

そして、今年度は、はじめて西ノ島町(島前)を訪れました。合宿中日の6日に、練習のオフ日として休息を兼ねて観光に出かけさせていただきました。国賀海岸など、雄大な自然に直接触れることができ、驚きと感動の1日を過ごさせていただきました。たくさんの絶景を目に焼き付けることが出来ました。



そして4日目の7日は、隠岐の島総合体育館レインボーアリーナでVクリ in 隠岐の島(中学生バレーボール教室)を実施する予定でしたが、“隠岐の島町50年に一度の大雨”といわれる豪雨に見舞われ、会場も避難所になり、中止。練習も即刻中止にして、避難所を開設しました。島内でも、冠水や山から大水が流出するなど各所で通行止めが発生しましたが、随時、役場から連絡をいただき、無事に宿舎へ辿り着くことが出来ました。レインボーアリーナでの避難所開設の場面でも、私たちのような来島者に対しての連絡においても迅速な対応が取られ素晴らしい危機管理体制だとあらためて役場の皆様に感謝いたしました。さらに布施地区の地元の方も、私たちのことをご心配いただき、大雨の中、わざわざ宿舎へ来ていただくなど、地元の方々の温かさや優しさを感じました。島東部、中心部では大きな被害が出たようですが、被害に遭われた方々の1日も早い、復旧、復興を心から願っております。



最終日の8日も、午前中は毎年恒例のシーカヤック体験を実施する予定にしていたのですが、大雨洪水警報、さらに雷注意報も発令されていたので、中止とさせていただきます。

この隠岐合宿は、集団生活の中でそれぞれを理解し合い、チーム力を高めるためにとても重要な合宿と考えています。互いが理解し合うには、それぞれの良いところ、不足しているところがわかるからこそ補い合い、集団として大きな力“チーム力”を発揮することが出来ると思います。悪天候により、互いを補い合うまでは出来ませんでしたが、理解し始めたと考えています。これからも私たちの活動を通して理解し合い、補い合いながらチームとして成長していきます。今年度も、島本光彦様を始め、竹本久布施支所長様、長谷川正明布施公民館長様、たくさんの方々にご協力賜り、無事に終了することが出来ました。帰り際、皆様に「新聞見ちゃっけん。応援してるよ。」と言っていただきました。この隠岐合宿がチーム強化の一因となって、個人として、チームとして、もっと成長し、一つでも多く勝利できるように頑張ります。本当にありがとうございました。

II・無念の津和野合宿 (2020 SUMMER TRAINING CAMP IN TSUWANO) 中止！

8月10日(月)から6日間の日程で津和野町民センター体育館を会場に開催する予定だった津和野合宿(2020 SUMMER TRAINING CAMP IN TSUWANO)を島根県内での新型コロナウイルス感染の大量確認(クラスター発生)に伴い、急遽中止とさせていただきます。参加予定のチームの指導者・選手・保護者の皆様には急な中止連絡となり、多大なるご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。感染防止対策や熱中症対策に万全を期してまいりましたが、実施できませんでしたこと深くお詫び申し上げます。

実施に向け、本校の宮島校長、津和野町教育委員会、津和野町民センターの皆様には、実施に向けたご助言やご支援を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が終息に向かえば、再び県外強豪チームの皆様を招請し、実施していきます。宿泊に関してご協力いただくはずだった、町内業者の皆様にも、急なキャンセルにもかかわらず、ご理解いただきましたこと厚くお礼申し上げます。

中止と同時に、春の高校バレー全国大会の実施決定が発表されました。無観客ではありますが、高校バレーボーラーの希望の火は消えていません。大会のその日まで、しっかりと練習するのみ。感染防止対策やそれぞれ個々の意識を高めて、一層精進してまいります。

昨今、強く思うことがあります。ある記事で見たのですが、東京から帰省した人に対し、「何しに帰ってきたのか！すぐに帰れ！」というメモが玄関先に貼られていたというもの。「県外の人には、感染しているかもしれない」とか、「特定の地域の人と接するのは怖い」とか、理解できないわけではありません。しかし、特定の地域で生活していっしょやというだけで「怖い」と思うってしまうのは、いかがなものなのか、と思います。

感染症というのは、目に見えないウィルスの侵入によって感染し、そのウィルスの増殖によって発症してしまいます。当然、感染リスクの高い生活をしていれば、感染しやすくなりますが、そうでなくても感染してしまう可能性はあります。常に感染リスクを抑える生活「新しい生活様式」は、心がけなければなりません。それが「偏見」や「差別」にならないことを祈ります。大切なのは、個々の感染防止に対する意識です。

県外ナンバーを見るだけで、不快になったり、排除の心を持ちたりしてはなりません。何が悪くて、何が正しいのか。私たち日本人の心が試される時ではないでしょうか。



隠岐遠征アルバム





(目的) 大山隠岐国立公園内にあり、ユネスコ世界ジオパークに認定されている隠岐の島。
 その雄大な自然の中で過ごすことで様々な発見ができ、自らが生かしていただいていることに
 気づくことができる。あらためて何気ない日常に様々な意味があることを理解し、そして支えて
 くださっている方々の有難さを再確認し、感謝する気持ちを深めることができる。さらに多くの
 方々に携わっていただき、触れ合うなかで他人に対する思いやりの気持ちを養うことができる。
 また、日常から遠く離れた場所で寝食を共にし、バレーボールに打ち込むことで短期間での
 スキルアップはもとより、心身両面の鍛錬となる。合宿終了時には、深い充実感と達成感を
 得て、明日への活力を漲らせることになる。

“ツコウ” の今をお届けします！

様々な情報発信を心がけています。

ぜひホームページを訪れてみてください。

学校生活や寮生活、部活動に関するニュース満載！

<http://tsuwano.ed.jp/>

